

令和3年度  
函南小学校  
学校支援会議便り  
No.3 11月  
文責 渡邊

## 読書活動の推進に向けて

函南町では、函南スタンダードが幼児、小学生、中学生のそれぞれの発達段階に合わせて設定されています。小学校編は下記の通り示されています。

- 1 進んであいさつをする
- 2 決まりや時間を守る
- 3 人の話を集中してきく
- 4 運動やスポーツ、外遊びにはげむ
- 5 読書に親しむ

本校でも、令和2年度に続き、令和3年度においても読書活動の推進に取り組んでいるところです。昨年度の第2回「函南小学校支援会議」において、学校職員と支援会議委員の方々とで「読書活動」について有意義な話し合いが行われました。子供たちが読書活動を推進する上では、学校と家庭、地域、そして「かなみ知恵の和館」等の外部機関との連携が大切なこととなることを確認しました。

読書活動を推進する上で、保護者や地域の皆様方による「読み聞かせボランティア」の協力のもと読み聞かせを実施していただいています。新型コロナウイルス感染症の対策をしっかりと行った中、子供たちが読書に親しみ、読書のすばらしさに気付いて欲しいという願いのもと行ってくださっています。また、「図書館ボランティア」の皆様方には、学校図書館の整備や図書の補修等のお手伝いをしていただき、子供たちが楽しく学校図書館を利用しやすいように工夫いただいています。

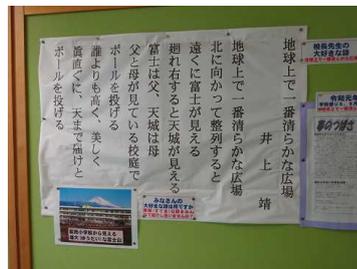


令和3年度の学校の取組としては、毎週月曜日と金曜日の朝、8時10分から25分の15分間を「読書の時間」と設定し、読書活動を推奨しています。併せて、毎週木曜日の家庭学習は、「読書の日」とし、各家庭で読書活動に取り組んでいます。

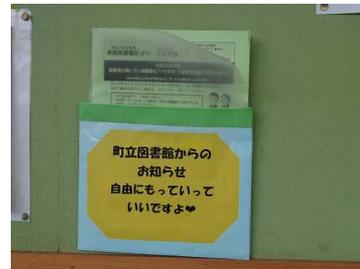
学校図書館の掲示等の工夫も、学校図書館司書を中心に学校職員と図書館ボランティアさんが協力し、魅力ある環境作りに努めています。湯ヶ島で育った井上靖先生の著書を並べたり、「かなみ知恵の和館」の紹介コーナーを設けたりしています。



【井上先生の著書】



【井上先生の詩】



【町図書館のコーナー】

さて、ここで考えてみたいと思います。読書はなぜ必要なのでしょう？ここが大切だと思うのですが、このことに関しては、いろいろなご意見があろうかと思われま。私は、令和元年10月の学校便りで下記のように記述しました。

読書には、たくさん良いところがあります。たくさんと記したのは、人それぞれに

感じるところがあるからです。わたしは、今回、自分が感じたり、聴いたりした3つの良いところを紹介したいと思います。

1つ目は、「集中力が身に付くこと」です。好きな本と出会ったとき、時間を忘れてまで読んだ経験はありませんか？そのように集中できる経験は、とても大切なことなのです。本を集中して読むことのできる人は、他のことでも集中力が身に付き、学習に対しても集中してできるようになるという話を伺ったことがあります。

2つ目は「耐性が身に付くこと」です。読書を行うことは、ある意味、我慢することが求められます。わたしたちの身の回りには、たくさん楽しく興味深いものが溢れています。タブレットからの様々な情報は、思考を働かせることなく目に映ってきます。中でも、動画は、おもしろおかしく加工され、時間が経つのも忘れてしまうほどです。しかし、読書は違います。主に文字による情報を自分でイメージ化することが求められるのです。ですからとても疲れます。時として、意味の分からない語句も表れます。こうしたことを克服して読書は成り立つのです。ここでも、読書による耐性を身に付けた人は、学習に対しても、最後までやり遂げることができるのではないのでしょうか。

3つ目は、「想像力が身に付くこと」です。物語の世界では、登場人物になったつもりで、自分が経験できないことを体験したり、気持ちを考えたりすることもできます。時には、知らない外国に出掛けたり、未来や過去の世界にも行けたりするのです。つまり、わたしたちの世界がどんどん広がっていくのです。世界がどんどん広がっていくと、心まで豊かに広がっていくように思いませんか？読書による想像力を身に付けた人は、心が豊かになり、相手のことを考え、優しくなれると思うのです。

読書をするものの効果については、令和3年度においても子供たちに伝えたところです。しかし、子供たちには上記のような難しいことは伝わらないことと思われます。子供たちは、読書が楽しいから本を手にとるのです。

今年度は、本校の児童会の一つである「図書委員会」が読書活動を広めようとアクションを起こしました。

「かんしょう人気な本ランキング」の募集を全校児童に呼び掛けたのです。たいへん素敵な活動であると思います。子供の読んでみたい本は、子供自身がいちばん理解しているのですから。子供のこうしたアクションは、とても喜ばしい活動であると思います。

また、親子による「読書郵便」がこの秋、行われました。下記はその様子です。



### 【読書郵便の掲示】

10月25日(月)に、令和3年度第2回「函南小学校支援会議」が開催されました。その際、教務主任の長澤教諭より、「令和3年度全国学力・学習状況調査」の調査結果と考察について説明しました。ここでは、「今回の結果をふまえ、あらためて『読書』の重要性を感じました。(中略)読書時間と平均正答率の相関性(読書時間の多い児童は、読書時間の少ない児童と比べて、特に国語の正答率が高い)も見られました。」というように読書の有効性を伝えました。

参加した委員の方々からは、「親子で町の図書館に行くことが大切。そのひと手間を大切にしていきたい」「親が本を読む姿を見せてきたか？子供は本を読まない。『本を読め』と言ったところで、どれだけ効果があるだろうか」「保護者の在り方がとても大切。そうした意味で、『親子読書郵便』は効果が期待できる」「『読みたい』という心を育てるには、1つの方法ではない。多様な方法を追究していくしかない」「基本的には子供は本が好き。活字離れと思っているのは大人だけかもしれない。自分で本を読む子がいる。環境を築くことで子供は育つのではないか」等の意見が出されました。

今後も本校では、読書活動を推進していきたいと考えます。どうかご理解、ご協力をお願いします。